Fate OVA SUTORATOSU

卍　羽ばたけ翼神機　卍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｆａｔｅ　ＯＶＡ　ＳＵＴＯＲＡＴＯＳＵ

【Ｎコード】
Ｎ２２９０Ｚ

【作者名】
卍　羽ばたけ翼神機　卍

【あらすじ】
聖杯戦争とは、各時代の英霊達が集い聖杯を巡る戦争なのである。
あなたは、この戦争の先に何を見るのか？

第2話　聖杯戦争開戦？

サーヴァントの召喚に成功した俺（明智兄哉）はランサーの真田幸村と共に今の時代を分かってもらうため町案内をしていた。

「どうだ、ランサー前来た時より色々変わって入るか？」

と幸村聞く兄哉

「はい、前来た時代より色々なものが、進歩していますな、例えば、車や、前の時代は携帯などはありませんでしたし」

「ランサー、君が前来た時代はいつだったんだ？」

「私が前来た時代は確か日本が高度経済成長している時代でした。」

と兄哉に答えた。

「約５０年位前にも召喚されてたのか。　その時日本の何処に召喚されたんだ？」

とさらに質問する、兄哉。

「あの時も、この京都に召喚されました。」

「なあ、ランサー頼みがあるんだが？」

とランサーに言う。

「なんでしょうか、主（マスター）」

「ランサーが良ければで良いんだが、お互いに堅苦しい言葉使いを止めないか？　俺はランサーの事を幸村と呼ぶ、幸村は俺の事を呼び捨てで呼んでくれないか？」

と幸村に提案する兄哉。

「分かった、これから兄哉と呼ばせてもらおう。だが突然どうしたんだ？」

と兄哉に疑問を抱く。

「相棒なら信頼関係を作らなくてどうするんだ？」

「信頼関係がなくては、この聖杯戦争開戦は勝てぬからな」

と幸村に言う兄哉。

「所で兄哉、先程から後をつかれているのを気づいていたか？」

「分かっているさ、周りにさっき式神を放ったさ。嫌、待て幸村、式神がやらた。」

「兄哉走るぞ？」

と兄哉に言う幸村

「分かった幸村俺の肩に手を。明智流歩方術（　あけちりゅうほほうじゅつ）瞬？」

幸村が兄哉の肩に手を置くと一緒に近くの、ビルの屋上に一瞬で移動した

「兄哉、今の術は？　ちょいとした瞬間移動ってやつだ？この札は瞬間移動先の目印になってるんだ逆にこの札が無い場所は移動出来ないんだ。この札を町のあちこちの建物に埋め込んでるのさ？」

と幸村に札を見せながら説明する兄哉。

「で、幸村、敵はどこに入るか分かるか？」

「嫌、まだだ。兄哉構って待つんだ？」

「了解。」

と背中を合わせながら前後、左右を警戒しながら敵を探る。とその瞬間、屋上の床の影から大量の針が幸村と兄哉に襲って来た。

「幸村飛ぶぞ。」

と言いながら飛ぶ兄哉、そして、手に札を出し槍を空間術で手に出し、針を跳ね返した。

「兄哉大丈夫か？」

「俺は大丈夫だ幸村こそ、気をつけろよ？」

と兄哉が言ったその瞬間に兄哉の背後に敵が？

「兄哉ー、ふん？」

「キーン？」

「大丈夫か、兄哉。貴様、我が主（マスター）に傷を付けさせぬ」

と槍で敵の斬撃を止めながら言う幸村。

「あれを止めるとは、なかなかやるねー槍って事はランサーか、それに真田の六門銭って事は君が真田幸村か、参ったねーどーも。」

と見た目、３０過ぎのサーヴァントが言う。

「たく、アサシン？さっき、一撃目でマスターを切りなさいって言ったのに。下手くそ？」

と見た目１６歳位の少女がアサシンに言った。どうやら、この子がアサシンのマスターのようだ

「そりゃ、無いよ三咲ちゃん、僕にだってこの二人を相手にしなきゃあないんだよ？少しはいたわってくれないかな？」

「うるさいー？」

「たく、緊張感が無い奴らだな、幸村二人で攻めるぞ。
暗具、大刀紅包丁」（だいとうべにぼうちょう）

兄哉は、暗器道具の一つ大刀紅包丁を出した。大刀紅包丁の能力は（見た目はナルトの首切り包丁を想像してください。
）血を吸収し、使い手の魔力が上がりさらに傷を癒やす、明智家に

伝わる妖刀の一つであるが無論、妖刀なのでリスクもある、3月間人間の血を吸収しないと使い手に襲って来る。

「アサシン覚悟？」

アサシンに紅包丁で切りかかる兄哉。

「君、甘いね。」

（キーン）

と、あっさり跳ね返えされると思いきや、兄哉の後ろから突きをアサシンに向け繰り出す幸村。

「はあーー？」

「おっと、危ないな。」

ギリギリで交わしたアサシン。

「たく、攻撃が読めない奴だな。」

「まったくだ。」

「あっまだ、自己紹介がまだったね、僕は見ての通りアサシンで、神明は、近藤勇。
こっちの女の子は僕のマスターで。」「今川三咲（いまがわみさき）よ、覚えておきなさい、私達が聖杯を手に入れるんだから、あなた達はここで倒されなさい？」

と勢い良く言う、三咲。

「まぁ、自己紹介はこの位で、さぁー次きしょうか？」

「望む所だ？」

と挑発に乗ってしまう幸村。

「力むな、幸村俺が今度サポートに入るから、幸村は存分に暴れてくれ。」

「承知した。」

「行くぜ」

「明智流暗器術、暗器、秋鎖雨？」（あきさざめ）

無数の暗器（手裏剣、槍、刀、鎌など）がアサシン達に襲いかかって行く。

「幸村使え？、暗器、紅蓮の矛、烈火」（ぐれんのほこ、れっか）

幸村に術で出した。槍を幸村に投げた兄哉。

続く。

？この物語はフィクションである。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2290z/

Fate OVA SUTORATOSU

2011年12月8日03時04分発行